

あ、あ、あ、あ

第 159 号

2020年5月7日発行

TEL 0193-42-2111

FAX 0193-42-3855

発行 大槌町議会

議会報

おーい！春が来たよ！
(つつみこども園)



主な内容

- 予算特別委員会の内容 ○ ○ ○ ○ 2~3
- 審議した議案 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 4~5
- 委員会活動の報告 ○ ○ ○ ○ ○ ○ 5

- 一般質問の項目 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 6
- 一般質問の内容 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 7~13

令和2年度予算を審議

「産業成長戦略予算」

新産業創出による地域課題解決への挑戦

◇ 予算特別委員会 ― ＊

予算特別委員会は、3月13日から18日までの日程で開催されました。委員長に佐々木慶一議員、副委員長に澤山美恵子議員を選出し、本会議で付託された2年度一般会計予算など5会計の予算について審査しました。予算特別委員会での審査終了後、本会議を再開し、採決の結果、2年度一般会計予算など5会計の予算は、いずれも全議員賛成により原案のとおり可決となりました。

注目事業

2年度実施事業の一部を紹介します。

○おおつち地場産業活性化センター赤浜地区実証棟整備事業

9000万円

○鎮魂の森整備事業
1096万円
「鎮魂の森」を東日本大震災津波に関する町全体の「追悼・鎮魂」の場とするとともに、町民が日常的に集い、憩い、交流の場として永く親しまれながら、森を育んでいくことを通じて、「被害と教訓」、「復興への思い・感謝」「希望」を将来世代にメッセージとして伝え続けていくことができるような場を整備するものです。

○高校魅力化推進事業

1119万円

大槌高校に魅力化推進員を配置し魅力化を推進するとともに、東京で開催される「地域みらい留学フェスタ」に出展し、3年度受け入れを目指した県外生徒の全国募集を行うものです。

○新産業創出研究センター運営事業

905万円

東京大学海洋研究所跡地に、真水・海水を活用し、採卵、魚類試験養殖、稚魚の馴致、いそ焼け対策実証実験などを実施する施設を整備するものです。

○大槌ジビエソーシャルプロジェクト

3034万円

二ホンジカの有効活用を目的とするジビエ事業を持続的に行うためのジビエサイクルと、町のジビエ事業及び全国のジビエ事業の好循環に資するためのオンラインプラットフォームを構築し、その事業基盤を活用したPR事業を町内外で展開

することで、観光客誘致に加え、新たな地域産業の創出や農林業被害などの地域課題の解決に資する取り組みを実施するものです。

○大槌町保健センター整備事業

1億8680万円

保健事業の拠点であった須賀町分庁舎が震災により被災全壊したことから、補助事業を活用し保健センターを整備する

○斎場整備事業

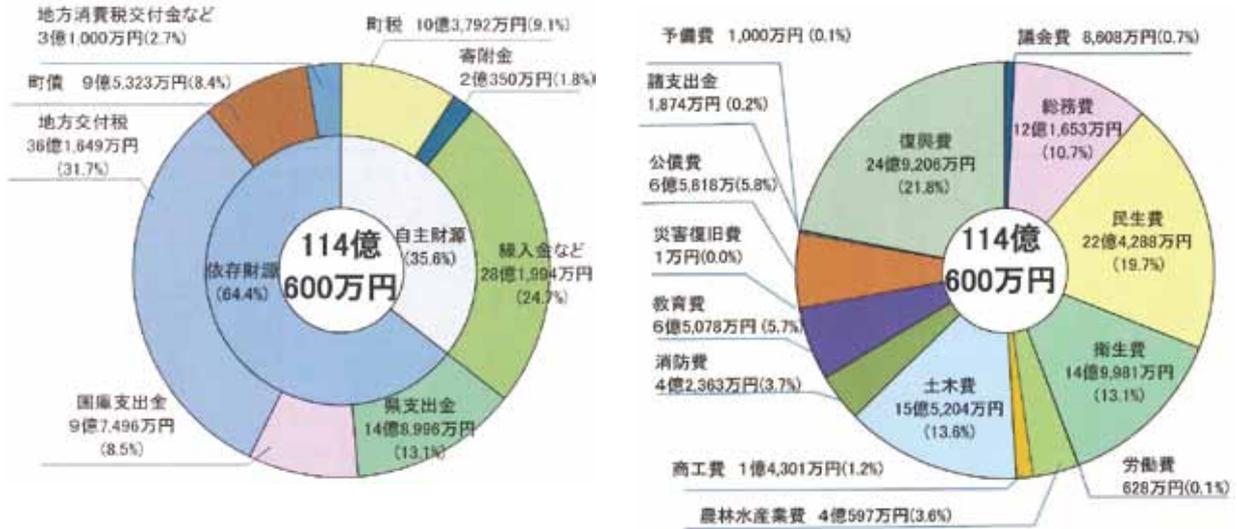
5億1431万円

既存の火葬場は著しい老朽化により修繕費等の維持管理費が年々増加していることや、告別室や収骨室が狭いなど町民のニーズに十分に応えられていない状況にあることから、衛生的で人生最後のお別れの場としてふさわしい斎場を整備するものです。



整備される大槌町斎場の外観イメージ

令和2年度 一般会計予算の内訳



歳入 歳出

令和2年度 各種会計予算額

会計区分	一般会計	特別会計		
		国民健康保険	介護保険	後期高齢者医療
予算額	114億円 600万円	16億 6,020万2千円	15億 3,061万5千円	1億 2,553万6千円

歳入

一般会計予算に関する質疑の一部を紹介します。
 ◎質疑：ふるさと納税の歳入予算が1億円ほどふえているが、前年度と違う何か新しい商品を開発したとか画期的な要因があるのか。

◎答弁：特別新しいことをしているわけではないが徐々に伸びている。ポータルサイトを活用してPRの仕方を改善していきたいと考えている。

ルス感染予防対策については。
 ◎答弁：3月12日に対策本部を立ち上げた。危機感を持って対応する。フェーズに応じた対応策を考えている。

農林水産費

◎質疑：直近の町内の農業被害額と有害鳥獣の捕獲数は。
 ◎答弁：1千万円ほどの被害で、捕獲数は200頭。

土木費

◎質疑：戸建て住宅売却は現在進んでいるか。また、手続きは始まっているか。
 ◎答弁：現在、大ケロ2丁目の第2町営住宅の4戸について売却の希望がある。手続きについても早急に進めていきたい。

復興費

◎質疑：大槌町コミュニティ活動推進助成金の今年度の交付件数は。
 また、どのような団体がこの助成金を使い、どのような活動をしたのか。

総務費

◎質疑：マイナンバーカードの普及促進のための取り組みについて伺う。
 ◎答弁：3月1日現在で1313件の交付実績。前年度より伸びている。普及促進の取り組みについては今後さらに考えていく。

商工費

◎質疑：新型コロナウイルスにより宿泊施設のキャンセルとか関連した事業所は窮地に立たされているとのこと。どのように対応していく考えか。
 ◎答弁：産業面については被害が発生している。政府の対応も注視しながら町としても素早い対応ができるように検討していきたい。

衛生費

◎質疑：新型コロナウイルス

◎答弁：交付件数は15件、金額が216万9千円の執行状況になっている。自治会町内会のほか、住民のコミュニティ活動団体全般に対して助成し、イベントの開催、そのほかのコミュニティ活動が行われている。

令和2年3月定例会

議会活性化特別委員会を設置

令和2年3月定例会は、3月5日から19日までの15日間の会期で開催されました。今期定例会には、「第2期大槌町子ども・子育て支援事業計画」策定の報告、大槌町職員定数条例の一部改正、大槌町文化交流センターの管理を行う指定管理者の指定、元年度の各会計の補正予算、2年度当初予算など、報告5件、議案26件が提案されました。

また、一般質問には7議員が登壇し、町当局の姿勢や施策をただしました。

◇議案—*

《条例の改正》

◎大槌町課室設置条例の一部改正：大槌町組織・定数計画に基づき、所要の改正を行うものです。
(全員賛成・原案可決)

《指定管理者の指定》

◎大槌町水産物生産流通施設の管理を行う指定管理者の指定：大槌町水産物生産流通施設の管理者を、新おおつち漁業協同組合とするものです。
(全員賛成・原案可決)

《契約の締結》

◎工事請負契約の締結：運動施設整備工事(その1)において随意契約により前田建設工業株式会社東北支店と10億4973万円で工事請負契約を締結するものです。
(全員賛成・原案可決)

◎大槌町文化交流センターの管理を行う指定管理者の指定

大槌町文化交流センターの管理者を、一般社団法人おらが大槌

◎工事請負契約の締結：運動施設整備工事(その2)において

随意契約により前田建設工業株式会社東北支店と7億8672万円で工事請負契約を締結するものです。
(全員賛成・原案可決)

◎令和2年度大槌町介護保険特別会計予算
(全員賛成・原案可決)

《予算》

◎令和元年度大槌町一般会計補正予算(第5号)を定めること：三陸鉄道災害復旧事業費負担金、県営漁港施設機能強化事業負担金などによる増額補正、復興関連事業などの減額補正により、歳入歳出予算から23億6515万7千円を減額し、予算の総額を270億1501万9千円とするものです。
(全員賛成・原案可決)

◇報告—*

◎「第2期大槌町子ども・子育て支援事業計画」の策定に係る報告：子ども・子育て支援法に基づき、27年度から元年度までの第1期計画を策定しており、その計画が最終年度を迎えることから、

議会の動き

- 2日：町政施行130周年記念式典
- 14日：産業建設常任委員会・総務教民常任委員会
- 17日：東部町村議会議長会岩手県議会議員との懇談会
- 18日：東部町村議会議長会臨時総会(盛岡市)
- 21日：第2回議員全員協議会・議会報編集特別委員会
- 22日：柵内地区集会所落成式
- 2日：議会運営委員会
- 5日：3月定例会(～19日)
- 13日：予算特別委員会(～18日)
- 19日：議会報編集特別委員会・大槌高校魅力化構想会議
- 20日：三陸鉄道リアス線全線運行再開記念列車出発式
- 26日：ハイスこづち落成式
- 13日：議会報編集特別委員会
- 23日：第3回議員全員協議会・議会運営委員会
- 28日：令和2年第2回臨時会

第2期計画を策定するものです。

◎「大槌町食育推進計画(第2次)」の変更に係る報告：26年度に大槌町食育推進計画(第2次)を9カ年計画で策定しており、今年度が中間年度に当たることから中間評価を実施するとともに中間見直しを行うものです。

◇ 請 願 — *

《継続審査となった請願》
◎「大槌町に放射性廃棄物を持ち込ませない条例(仮称)」制定についての請願：日本の原子力行政は、原子力発電所から出る有害な放射性廃棄物を地下300メートルに埋める計画を進めており、岩手県の北上山地が有力な候補地として挙げられている。北上山地とそれに連なる三陸沿岸

の豊かな自然が放射能で汚染されることのないように「大槌町に放射性廃棄物を持ち込ませない条例(仮称)」の制定が必要と考える請願です。(豊かな三陸の海を守る会 共同代表 横田 有平)

◇ 発 議 案 — *

◎議会活性化特別委員会の設置：議会の公平性と透明性を保ちつつ、議会の活性化と町民に開かれた議会を目指し、調査、的とし設置するものです。

【議会活性化特別委員会】
◎東梅康悦 委員
◎菊池忠彦 委員
佐々木慶一 委員
澤山美恵子 委員
阿部三平 委員
阿部俊作 委員
芳賀 潤 委員
(委員長は◎、副委員長は○)

第1回臨時議会

令和2年第1回臨時会は1月24日に開催され、議案3件が提案されました。

◇ 議 案 — *

《契約の締結》
◎工事請負契約の締結：吉里吉里地区放流・污水管新設工事
◎工事請負契約の締結：郷土財活用湧水エリア整備2次造成工事
◎工事請負契約の締結：浪板幹線道路整備工事(第2工区)(3件全て全員賛成・原案可決)

議員の表彰

次の議員が全国町村議会議長会の表彰を受けました。

職員在職15年以上表彰

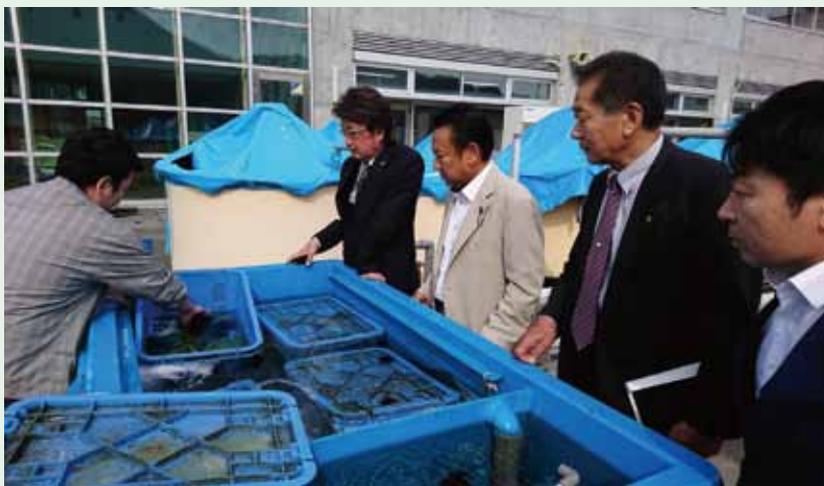
金 崎 悟 朗

令和2年2月6日

委員会活動報告

産業建設常任委員会(阿部俊作委員長)は、令和元年10月24日、岩手大学農学部食料生産環境学科水産システム学コースの釜石平田キャンパスで、今後の漁業の課題やあり方を検討するために、海洋資源の保護と活用について視察研修を行いました。

研修は、岩手大学水産研究センター長の平井俊朗教授によるセンターの紹介及びウニ養殖の座学、システム学コースの遠藤裕介さん(4年生)の卒業論文の研究紹介という内容でした。
現在、全国の沿岸部では深刻なウニ焼けの問題とされており、この問題の原因の一つとしてウニによる食害が挙げられています。また、いそ焼け地域に生



「野菜くず」を利用したウニ養殖視察研修の様子

息するウニは身が入っておらず漁師も獲らなため増殖する一方となってしまうというので、岩手大学では問題を解決するため、産業廃棄物となる「野菜くず」を利用したウニ養殖を行い、循環型息するウニの育成にもつながるものとして研究を進めています。循環型産業は一層進めて行かなければならない課題です。今回の研修を今後の活動に役立てていきたいと思

3月定例会一般質問の項目

1 東梅康悦議員
P7

- ①障がい福祉プランについて
- ②土砂災害警戒区域の指定について

2 澤山美恵子議員
P8

- ①防災について
- ②子どもの遊び場について
- ③循環バスについて
- ④協働地域づくり準備室について

3 菊池忠彦議員
P9

- ①係船岸壁の整備について
- ②ローカル5Gを利用した事業の展開について
- ③動画配信サービスを活用した情報発信について
- ④学園の森整備について
- ⑤郷土芸能の町無形民俗文化財指定について

4 臼澤良一議員
P10

- ①財政問題について
- ②東日本大震災からの復興の現状と課題について
- ③環境行政について

5 芳賀 潤議員
P11

- ①令和2年度当初予算における産業施設について
- ②第2期子ども・子育て支援事業計画について

6 阿部俊作議員
P12

- ①農林水産業の取り組みについて
- ②大槌高校の魅力化について
- ③震災津波遺構について

7 佐々木慶一議員
P13

- ①災害への備えと復旧について
- ②今後の地域コミュニティについて

「障がい福祉プラン」重点施策は

相談支援への対応が必要である



東梅 康悦 議員

「障がい福祉プラン」について

【問】障がい福祉プラン「実施計画の進捗状況を伺う。」

あわせて諸課題があればその内容と対応を伺う。

【答】（平野町長）

実施計画は30年度から2年度までの3カ年であり、2年度が最終年度となる。

2年度は大槌町障害者計画策定委員会を開催し、現計画の評価を行い関係機関より意見をいただきながら次期計画の策定を進める。諸課題についても計画評価の際に洗い出しを行う。

【問】重点施策をどのように捉えているか。

【答】（小笠原保健福祉課長）

相談支援の件数が年間800件と伸びている。サービス利用や日常生活の相談が多いことから見守りや定期的な訪問が必要と考えている。

【問】担当課として町民の方々に望むことは何か。

【答】（小笠原保健福祉課長）

担当課として町民の方々に促していくことは、障がいについて理解していただき、お互いに手を取り合って生きていくことが必要と考える。

土砂災害警戒区域の指定について

【問】県では土砂災害防止法に基づき、がけ崩れなど危険箇所の調査を行い、調査結果の住民説明会を町と共同で実施し、その後、区域指定を行う。地域の安全を高め、住民の命を守る施策のハード面、ソフト面の今後の取り組みを伺う。

【答】（平野町長）

当町の指定箇所は493カ所で、そのうち整備済みは24カ所である。



大槌町障がい福祉プラン(実施計画)
(第5期大槌町障がい福祉計画)
(第1期大槌町障がい児福祉計画)
〔平成30年度～平成32年度〕

平成30年3月
大槌町

大槌町障がい福祉プラン（実施計画）

ハード対策の実施は時間的にも予算的にも困難であるが、今後も県に対し、対策工事の働きかけを行う。

ソフト対策では「みずから身をみずから守る」を基本とし、正確かつ迅速な情報提供、危険箇所のパトロール、防災マップの更新、地区自治会等への講習会等を実施していく。

【問】町内全域で基礎調査の終了はいつごろか。

【答】（田中危機管理室長）
今年度中に基礎調査の結果公表し、6年度までに区域の指定を完了したい旨の連絡を県から受けている。

【問】特に緊急性の高い場所への住民への周知は。 【答】（田中危機管理室長）
今回初めて県の職員とともに個別の相談説明を行った。



澤山美恵子議員

生井沢川氾濫、小鎚川に強制排水を

事業費大きく、実現性低い

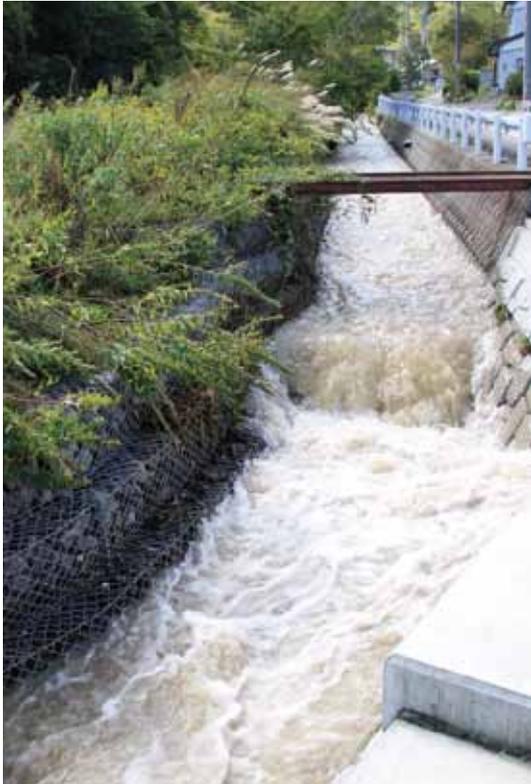
防災について

【問】土砂災害警戒区域にあって、鉄筋コンクリートの建物や擁壁がある場合は町の避難所として指定することだが、その時期や予算は。

【答】（平野町長）

新規建設予定の建物及び既存建物に対する擁壁等の設置は予定していない。緊急性や優先度を考慮した上で必要に応じて検討を行う。

【問】生井沢川の流れを変える工事が予定されているが、その工事をすれば花輪田



生井沢川

地区が浸水しなくなるのか。

また、小鎚川に強制排水するようなことも検討してはどうか。

【答】（平野町長）

花輪田地区の浸水は改

修を行っても解消されない。解消には生井沢川と

小鎚川の合流地点に水門を設置し、揚水機場を設置することが有効だが、

事業費が数十億と大きく、実現性は極めて低い。

子どもの遊び場について

【問】子どもが安心して遊べる場が整備されるまでの間、公民館の体育施設を活用してはどうか。

【答】（沼田教育長）

城山公園体育館は1時間300円で利用者は月平均754人。安渡分館避難ホールは1時間700円で

本年度の利用はない。赤浜分館ホールは

1時間600円で、1月の供用開始以降利用は4人。活用については、地域要望や利用状況等を踏まえ検討したい。

循環バスについて

【問】循環バスの試験運行が昨年末から始まったが、現時点での利用状況は。

【答】（平野町長）

一日当たりの平均利用者数は12人。小鎚浪板線と経路の一部が重複していることから、運行時刻が近いことから利用者が分散していると考えられる。

協働地域づくり準備室について

【問】目に見える復興事業が落ち着いた今こそ、コミュニティや防災、地域おこしなどについて、官民連携でじっくり考えるべきだ。地域復興協議会はいつごろをめどに再開するのか。

【答】（平野町長）

現在開催しているコミュニティ協議会のあり方も含め、意見交換・合意形成の場づくりを検討する。

係船岸壁の整備について

国・県に対して要望活動進める



菊池 忠彦 議員

係船岸壁の整備について

【問】震災後の岸壁は、地盤沈下した分をかさ上げ復旧しているが、その後の地盤隆起の影響で被災各所で漁業施設等が影響を受けていると報じられている。大槌漁港・吉里吉里漁港において、地盤隆起の影響がどの程度あるのか。

【答】（平野町長）
漁港施設は、復旧後の時間の経過とともに不都合箇所等が出てくるものと認識している。岩手県によると今回の復旧においては震災による地盤沈下を考慮した上で整備しているものの、その後、

さらに若干の地盤沈下が認められるとのことである。

【問】震災後、災害復旧によるコンクリートのかさ上げ工事の結果、船舶の係留水面と岸壁との高低差が生じ、特に干潮時において漁業者が、船からの乗り降りにはしごがなければ岸壁に上がれないという状況が続いている。常設はしご整備の可能性は。



はしごが未整備の安渡岸壁

ともすれば死亡事故につながる可能性もある。令和3年を待たずとも早急な整備を国・県に強く要望すべきと考えるが。

【答】（平野町長）
今後についても、関係機関並びに町議会と連携し、国や岩手県に対する要望活動を進めていく。

ローカル5Gを利用した事業の展開について

【問】今春から実用化が始まる5Gの通信網を使って、他県で遠隔医療の実証実験が行われた。5Gは高精細な画像など大量のデータを超高速で送ることができ、通信のタイムラグが小さいのが特徴だが、実現化すれば内陸部にある基幹病院に向くことなく、県立大槌病院において先進医療を受けられる可能性も高くなる。この最先端の遠隔医療の実現に向けて、県の医療局への働きかけを行ってはどうか。

【答】（平野町長）
県医療局においては、現在、各県立医療機関と光回線を用いた医的連携を行っていることを認識している。地域医療において最先端医療技術の導入や、システムの改修の時期については医療機関と情報を密にし、整備が必要な場合は行政としての取り組みを進めていく。

郷土芸能の町無形民俗文化財指定について

【問】郷土芸能団体の町無形民俗文化財指定についての可能性を度々伺っているが、その後の進捗状況は。

【答】（沼田教育長）
先ごろ、大槌町文化財審議会を開催し協議を行った。指定基準の検討に係る確認及び町指定候補物件の絞り込みについての話し合いも行われ、教育委員会としても早期指定に向け、引き続き取り組んでいきたい。

【答】（平野町長）
新おつち漁協によると、平成29年から毎年、岩手県に対し安渡・赤浜・白石地区の3カ所へのはしごの設置を要望し、県においては、「はしごの必要性を認識しているところであり、3年度の整備に向け、国に対して予算要求の準備を進めている。」との回答を得ている。

【問】漁業者が海中に転落する事故が数件発生し、



白澤良一 議員

今後どのように健全財政を維持していくのか

「公共施設管理基金」の創設を検討する

財政問題について

【問】復興期間中にどれだけの施設を整備したのか。

【答】（平野町長）

震災前の施設数が477施設に対し、震災後は955施設を整備しており、478施設の増加である。増加の主な要因は戸建ての町営住宅である。

【問】地方債の交付税措置がどの程度になるのか。

【答】（平野町長）

30年度末の地方債残高は、63億8082万円である。元年度の元利償還金見込額は5億7363万円、6年度には8億



町の課題解決に取り組む役場庁舎

【問】一人当たりの地方交付税の需要額は。

【答】（平野町長）

元年度地方交付税の需要額は35億5573万円であり、27年度国勢調査

円に達する見込みである。

【問】一人当たりの地方交付税の需要額は。

の人口1万1784人とすると30万1742円である。

【問】国勢調査人口が減少すると地方交付税に影響が出てくる懸念があるが、影響の度合いについて考えは。

【答】（平野町長）
元年度地方交付税の需要額は35億5573万円であり、27年度国勢調査

【問】今後、どのようなにして健全財政を維持していくか。

【答】（平野町長）
財政見通しの見直しを行い、適切に対処していく。

【答】（平野町長）
将来の公共施設の改修・大規模改修に備えるため、「公共施設管理基金」の創設を検討している。

東日本大震災からの復興の現状と課題について

【問】今後の地域産業の現状と課題について考えは。

【答】（平野町長）

不漁による水産加工の原材料不足、人口流出や少子高齢化の進展に伴う人手不足がまちづくりにおいて喫緊の課題である。

【問】地域振興と活性化策について伺う。

【答】（平野町長）

第9次大榎町総合計画に掲げる施策を連動させて取り組み、地域経済や地域産業の活性化を図る。

環境行政について

【問】環境基本計画の策定状況は。

【答】（平野町長）
平成17年3月に策定。今後計画の見直しや審議会を開催し環境行政の推進に努める。



源水川のイトヨ

【問】町内の学校における環境副読本の活用や取り組み状況は。

【答】（沼田教育長）

現在、5年生の環境学習で活用している。4年生は「ふるさと科」において、体験を通じて自然環境の学びを深めている。

子育て世代包括支援センターの設置は

2年度までに保健福祉課内に設置する



芳賀 潤 議員

2年度当初予算における産業施策について

【問】近年の秋サケの水揚げ数量と額、新おおつち漁業協同組合が試験養殖を開始した、ギンザケ及びトラウトサーモンの水揚げ数量（見込み）についてを伺う。

【答】（平野町長）

元年度のシロサケの水揚げ量は約14・6トンで約1283万円。ギンザケ及びトラウトサーモンは、2年度の水揚げ量101・4トン程度の見込みと伺っている。

【問】町内に及ぼす経済的効果について伺う。

【答】（平野町長）

関係事業者の町内立地及び雇用の拡大、魚市場収入等の増による新おおつち漁協の経営安定化、水産加工業における新魚種の確保、加工品の出荷数量の増など、経済の好循環を期待するものである。

【問】いそ焼け対策では、ダイバーによる海藻の植生、ウニの駆除が行われているが、現状と今後の展開について伺う。

【答】（平野町長）ウニの除去を行ったエリアについては、ワカメ、コンブの新芽やフクロノリ、ホンダワラ、紅藻な

どの海藻類の繁殖が見られる。ウニを除去していないエリアでは、ウニの生息密度が高く、クボガイなどの食害も確認され海藻類の繁殖は見られない状況である。

【問】2年度中に「子育て世代包括支援センター」を設置する旨の説明があったが、その内容について伺う。

第2期子ども・子育て支援事業計画について

【問】2年度中に「子育て世代包括支援センター」を設置する旨の説明があったが、その内容について伺う。

【答】（平野町長）

「ニッポン一億総活躍プラン」により2年度までに全国展開されることになった施策である。センター自体は、保健福祉課内に設置し、出産から子育てに至るまでの支援を、保健師、管理栄養士、社会福祉士等が行うことを主体として考えている。

【問】第2期子ども・子育て支援事業計画の策定に当たり「子育て世代包括支援センター」の整備について本計画に明文化しなかった理由について伺う。

【答】（平野町長）子ども・子育て支援事業計画は子どもを主軸とした施策を項目ごとに指



子ども・子育て支援事業計画書

し示す計画であることから記載していない。

【問】本計画には、福祉分野と教育分野の連携・協力に関する記述や説明が少ないと感じるが、福祉分野と教育分野の連携・関係について伺う。

【答】（平野町長）

子どもの個々の性格や発達状況に応じた適切な教育はどういったものかについて、福祉、保育、教育、学校と連携した取り組みを行っている。また、就学前の子どもを対象に発達状況の確認や発育の促し方などの取り組みについても作業療法士を主とした福祉、教育による連携した支援策も



阿部 俊作 議員

観光船建物を遺構指定すべき

赤浜建物は積極的保存しない

農林水産業の取り組みについて

【問】漁業に関し、魚市場の水揚げが低迷しているが、その原因と対策は。

【答】（平野町長）

大槌魚市場取り扱い量の7割はシロサケで、来遊量が低迷している。人工ふ化放流が必要不可欠であり、健全な稚魚生産を実施していく。また、サケマス類養殖試験が開始され、市場の水揚げ、加工原料確保が期待される。

【問】漁船漁業の市場利用はどのように考えるか。

【答】（岡本産業振興課長）

漁協は漁船漁業など一次生産者を支える団体であり連絡を密にとっている。

【問】海洋汚染のプラスチックごみや河川の流木の対策や清掃の考えは。

【答】（平野町長）

昨年12月に岩手県海岸漂着物対策推進地域計画が策定された。当町も計画を踏まえ、関係者と役割分担、相互協力し、海岸・河川の清掃、環境保全の普及啓発に取り組む。

【問】国連「家族農業10年」についての考えは。

【答】（平野町長）

国連の声明は広範な社会問題解決の鍵で、町としても、地域農業マスタープラン実践を支援して、農地の多面的機能を発揮できるように、一次産業の育成に注力する。

【問】林業の若手育成や技術者養成の考えは。

【答】（岡本産業振興課長）

林業には各種研修があり、林野庁では「緑の青年等就業計画就業準備給付金事業」を設け研修助成を行っている。関係機関と連携して制度の周知を行う。

大槌高校の魅力化について

【問】学習環境整備として風雪雨除けのバス停や通路の防犯灯設置を考えたほしい。

【答】（沼田教育長）

大槌高校・保護者の意見を伺い、岩手県教育委員会と連携し、必要な整備に取り組む。

【問】高校の魅力も町の魅力もつながっている。どんな魅力を考えているか。

【答】（沼田教育長）

大槌の自然・郷土芸能・人の温かさなど町の姿そのもの。また、学びを追求する大槌高校生の姿は魅力と考える。

震災津波遺構について

【問】赤浜の観光船が載った建物は、地球活動を学習する教材。津波遺構に指定するべきでは。

【答】（平野町長）
積極的保存はせず、利用可能な間は伝承事業で活用する。



観光船「はまゆり」が載った建物（現在）

生活道路の災害発生時の復旧方法は

町道以外は再発防止仕様ではなく単純復旧



佐々木 慶一 議員

【答】(那須環境整備課長)
町道以外の当該道路は、何度被災しようが単純復旧(土盛り復旧)までしかやらない。

災害への備えと復旧について
【問】昨年の台風19号による大ケ口地区の「河川堤防決壊寸前」の処置としては、再発しないようにコンクリート等による護岸工事がされている。一方で、同じく台風19号を含め大雨のたびに侵食される生活道路もあるが、その復旧は再発しないようにアスファルト舗装まで行わないのか。

【問】復旧費用の使い方として、非常に無駄ではないか。
【答】(平野町長)
当該箇所を正確に認識した上で、対処方法について検討する。



復旧は土盛りだけ(舗装せず)



大雨のたびに侵食される生活道路



老朽化が進む避難場所への避難道

避難道整備について
【問】将来の地震津波に備え、避難場所に行くときに通る老朽化し損壊の恐れがある避難道路を整備するべきでは。
【答】(平野町長)
震災影響を受けてはいないが、老朽化している避難道路については、必要に応じて整備の検討を行っていく。

今後の地域コミュニティについて
【問】自立再建世帯、公営住宅入居者を含め、今後の地域コミュニティ活性化への取り組み方は。
【答】(平野町長)
さまざまな助成金制度を活用しながら、地域課題に主体的に取り組み、方々の広い参画を得て町と課題や目的を共有化し、ともに汗をかき「協働による地域づくり」を推進する。

表紙写真



表紙の写真は、桜が咲き始めた天気の良い4月8日、つつみこども園の様子です。議会報編集特別委員長の阿部俊作議員の作品の披露で驚く園児たちのかわいらしい姿や笑顔に癒され、楽しい時間を過ごしました。みんな元気いっぱい大きくなつてね。



表紙タイトル



今回の表紙タイトル「おおつち」は、つつみこども園の平野愛依さん(5歳)に書いていただきました。どんなことを思いながら描いてくれたのか伺いました。

タイトルは、次の4名の方にも書いていただきました。
小國まやさん(5歳)、関谷海里愛さん(5歳)、中村夏月さん(5歳)、平野カノアさん(5歳)
どの作品も上手で、一つだけ選ぶのが難しかったです。本当にありがとうございます。

定例会・臨時会議員出欠表

議席番号	議員氏名	3月定例会		第1回臨時会	
		3/5～3/19		1/24	
		出席	欠席	出席	欠席
1	菊池 忠彦	8	0	1	0
2	白澤 良一	8	0	1	0
3	佐々木慶一	8	0	1	0
5	澤山美恵子	8	0	1	0
6	阿部 三平	8	0	1	0
7	東梅 守	8	0	1	0
8	阿部 俊作	8	0	1	0
9	東梅 康悦	8	0	1	0
10	及川 伸	8	0	1	0
11	金崎 悟朗	8	0	1	0
12	阿部 義正	8	0	1	0
13	芳賀 潤	8	0	1	0
14	小松 則明	8	0	1	0

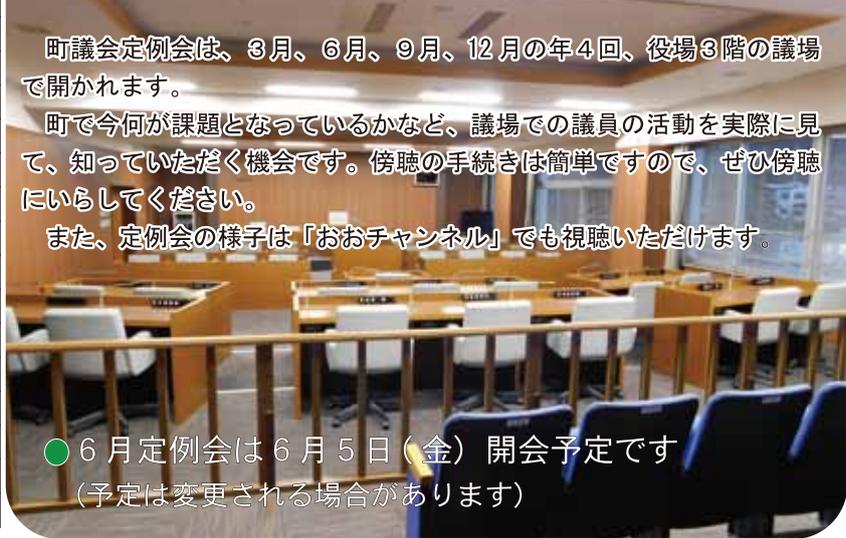
町議会を傍聴してみませんか

町議会定例会は、3月、6月、9月、12月の年4回、役場3階の議場で開かれます。

町で今何が課題となっているかなど、議場での議員の活動を実際に見て、知っていただく機会です。傍聴の手続きは簡単ですので、ぜひ傍聴にいらしてください。

また、定例会の様子は「おおチャンネル」でも視聴いただけます。

● 6月定例会は6月5日(金) 開会予定です
(予定は変更される場合があります)



編集後記

▼いわゆる「復興事業」も終盤を迎え、ほとんどの方が定住地での生活を送られていると思います。しかしながら現在の状況が震災直後に思い描いていた「復興」とはかなりかけ離れているように感じます。まちのにぎわい、なりわいの創出、地域コミュニティの再生、どれをとっても満足できる状態ではありません。そういう意味でも、我々議員がなすべきことは山積していると思います。町民の方々の意見を行政に反映させることを意識しながら、また議会の動きを少しでも町民の皆様に伝えることができるよう、議会報もできるだけ分かりやすくかつ内容が充実したものとなるよう努めていきたいと思えます。
(佐々木慶一)

議会報編集特別委員会

委員長 阿部 俊作
副委員長 菊池 忠彦
委員 阿部 義正
委員 及川 伸
委員 阿部 三平
委員 佐々木慶一